

Institute for Advanced Research, Nagoya University



名古屋大学高等研究院

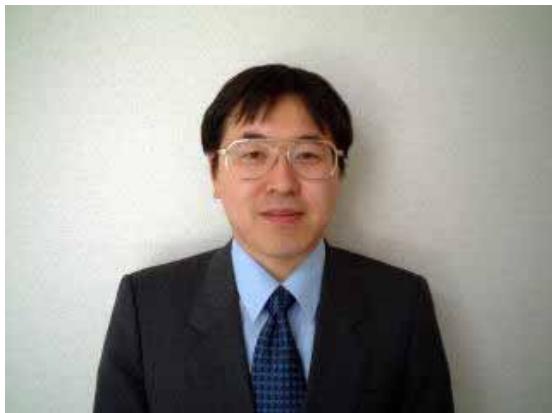
金融システム研究プロジェクト・ニュースレター

(発行責任者: 大学院経済学研究科教授 家森信善)

E-mail: yamori@soec.nagoya-u.ac.jp

[新聞寄稿論文の紹介]

「東海地域の金融機関の預貸率と預証率」



高等研究院のプロジェクトの一環として、『中部経済新聞』に連載している「東海金融の明日を考える」の第13回の原稿が、2004年5月3日に掲載されました。その全文を以下でご紹介します。

預貸率と預証率

銀行や信用金庫などの預金取扱金融機関の基本的な資金構造は、預金で資金を調達し、貸出や有価証券などで運用するというものである。

そのため、預金に対する貸出金の比率(預貸率)や有価証券の比率(預証率)は、金融機関の資産ポートフォリオの基本的な性格を示す財務指標として重視されてきた。

すでに、本欄では、東海地域(愛知、岐阜、三重の3県)の信用金庫の2003年3月末の預貸率が、全国平均に比べて低いことを明らかにしている。今回は、もう少し時期や対象を拡大して、東海地域の金融機関の預貸率や預証率における特徴を調べてみることにした。

預貸率の全国との比較

1997年3月から2003年3月までの各3月末の全国信用金庫の預貸率と東海地域の信用金庫の預貸率を比較してみたのが、図表1である。ここでは各信用金庫の貸出や預金額を合計してから預貸率を計算しているので、いわば規模でウエイトをとった平均値である。

これを見ると、この6年間に、全国と東海地域のいずれでも預貸率は大幅に低下している。また、東海地域の信用金庫の預貸率は、常に全

国の平均預貸率を下回っている。

次に、地域銀行の預貸率を見てみよう（図表2）。全国レベルでみても、東海地域に限っても、預貸率は1997年から2003年の間に低下している。全国と東海地域を比較してみると、いずれの業態でも全国平均より東海地域の銀行の預貸率の方が低いことがわかる。例外は、2003年の中京銀行のみである。特に、三重県の百五銀行の預貸率は非常に低い。他の三重県の銀行（第三銀行と三重銀行）の預貸率についても低い傾向が読み取れる。三重県の金融機関の預貸率が全般的に低いことが確認できる。

預証率の比較

預貸率が低いと自動的に預証率が高いわけではない。特に信用金庫の場合、中央組織である信金中央金庫への預け金が一定のウエイトを占めているので、預貸率も預証率も低いと言うことがあり得る。

実際に、預貸率と同様の方法で、信用金庫の預証率の推移を計算してみた（図表1）。預証率は、預貸率とは反対に、全国平均でも東海地域平均でも上昇傾向にある。特に、東海地域では6年間で10%ポイントの占率上昇が見られる。また、常に東海地域の預証率が全国平均よりも高い状況になっている。つまり、東海地域の信用金庫は貸出が相対的に少なく、有価証券投資が多めである。

預証率の高い三重の金融機関

地銀については三重県の預貸率が低いことを見たが、信用金庫についても各県で預貸率や預証率の状況はかなり違う。2003年3月期の各県の信用金庫の平均預貸率は、岐阜県63.1%、愛知県56.0%、三重県48.2%となっており、預証率は岐阜県22.4%、愛知県33.1%、三重県

41.0%である。

つまり、岐阜県は全国平均よりも預貸率が高く預証率が低い。逆に、三重県は全国平均よりも預貸率が非常に低く預証率は非常に高い。これは、地域銀行の場合と同様の傾向である。愛知県はちょうど両県の間に位置している。

さらに、個別信用金庫の計数（2003年3月期）で比較すると、預証率が全国で最も高かったのは高知信用金庫であった。2位が三重県の津信用金庫（70.2%）で、7位に紀北信用金庫（50.1%）が、そして11位に桑名信用金庫（44.2%）が位置しており、三重県の信用金庫の預証率が非常に高いことが確認できる。

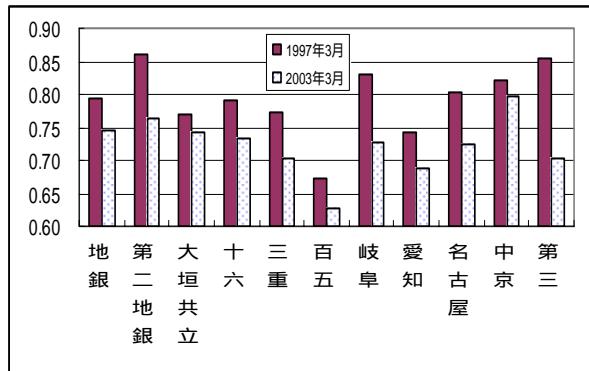
念のために、1997年3月の各県ごとの預貸率と預証率を調べてみると、岐阜県73.4%、愛知県66.6%、三重県67.0%となっており、預証率は岐阜県16.1%、愛知県22.3%、三重県28.7%であった。各県とも全国と同じように、預貸率が低下し預証率が上昇しているが、中でも三重県の変化は非常に顕著である。特に、図表3に示したように、津信用金庫が12%から70%へと急激に預証率を引き上げているのが目立つ。

こうした預貸率や預証率の差異がどのような要因によって規定されているのか、そして、そのような相違が金融機関の経営パフォーマンスにどのような影響をもたらしているのかを今後分析していくことが必要である。

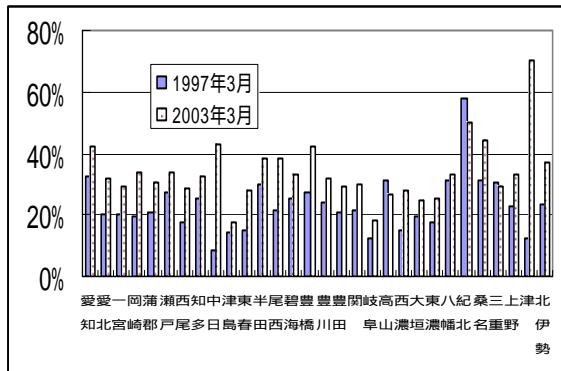
図表1 信用金庫の預貸率と預証率の比較

	預証率(%)		預貸率(%)	
	全国	東海3県	全国	東海3県
1996	16.3	21.1	71.8	68.5
1997	16.5	21.5	71.5	67.8
1998	17.8	23.4	69.5	66.8
1999	19.4	24.8	67.3	63.1
2000	21.3	26.3	63.8	59.8
2001	23.1	30.5	62.1	57.1
2002	24.0	31.0	60.5	57.2

図表2 東海3県の地域銀行の預貸率(1997年3月と2003年3月)



図表3 東海3県の信金の預証率(1997年3月と2003年3月)



(注) 地銀、第二地銀は全国の業態の平均値。

[論文紹介]

信用保証制度の改革に関する論文を発表

『金融ビジネス』(2004年5月号)に、「金融機関の審査機能充実を促す信用保証制度改革を」というタイトルの論文を発表しました。

信用保証制度がセーフティネットとしての役割を果たしてきたことは間違ひがありません。しかし、皮肉にも、その結果、企業の信用情報を生産するインセンティブが銀行の側でも企業の側でも小さくなってしまい、信用保証制度からの自立を促すメカニズムが働きにくくなっています。

<その他の5月の活動>

(1) 論文の刊行

『経済セミナー』(2004年5月号)で、「論争に学ぶ・経済学入門」という特集が企画されました。私は、「銀行への公的資金注入は許されるか」というテーマで、論文を寄稿しました。公的資金注入に関するこれまでの経緯を簡単に説明した後、公的資金注入の賛成論者の論拠、および反対論者の論拠をそれぞれ紹介しました。

私は、ダメな企業の延命に手を貸すのではなく、民間金融機関から自力で資金が借りられる中小企業を育成すること(したがって、企業情報の生産の促進)を、信用保証制度の新しい目標とすべきであり、そうした目標に沿った形で信用保証プログラムを作り替えていかねばならないと考えています。

そこで、本論文では、部分保証制度や事後検証付き保証制度など、公的信用保証制度の改革を具体的に提案しています。

(2) 論文の刊行

『銀行実務』(2004年5月号)で、「中小企業向け審査業務の効率化と融資戦略 電子取引による今後の融資戦略」という特集が企画されました。私は、「電子取引導入の現状と金融機関にとっての意義」というタイトルで寄稿しました。

(3) 論文の刊行

『金融ジャーナル』(2004年5月)で、「迫るペイオフ全面解禁」という特集が企画されました。私は、「信金格付けへの対応と情報開示のあり方」というタイトルの論文を寄稿しました。

(4) 論文の刊行

中小企業総合事業団の発行する『信用保険月報』(2004年5月号)に、「多様な資金の流れを促進する信用保証制度の新展開 新しい信託会社への信用保証付与の意義を中心に」というタイトルの論文を寄稿しました。

(5) 論文の公刊

日本商品先物振興協会の発行する『先物取引研究』(第9巻第1号 No.13 2004年5月)に「日本経済の構造改革と商品先物市場に期待される役割」というタイトルの論文を寄稿しました。これは、日本商品先物振興協会が昨年度に募集していた「商品先物取引に係る懸賞論文」において最優秀賞を受賞した論文です。

(6) 研究報告書の提出

簡易保険文化財団から平成15年度に研究助成を受けていました。その研究が予定通り終了しましたので、「金融機関における経営基盤の強化・健全化のあり方に関する研究 ペイオフの部分解禁後の公的資金注入の評価を中心に」というタイトルの報告論文を同財団に提出しました。

(7) 研究会報告

東海資本市場研究会において、「東海地域の企業の金融の現状分析：特徴と将来展望」というタイトルで、東海資本市場研究会が実施したアンケートに基づいて報告を行いました。

(8) 日本経済政策における学会報告

2004年5月29、30日の両日、日本経済政策学会の全国大会が関西学院大学で開催されました。私は、「ペイオフの部分解禁後の金融危機対応制度の運用に関する実証研究」というタイトルで、研究報告を行いました。これは、小林礼実氏(名古屋大学大学院)との共同報告です。予定討論者である関西学院大学の岡村秀夫先生から貴重なコメントを頂きました。

(9) 学会における予定討論者

上記の日本経済政策学会に於いて、播磨谷浩三氏(札幌学院大学)の「銀行業における会計基準と経営効率性との関連 90年代後半における銀行会計規則の変遷とその影響」というタイトルの報告の予定討論者を務めました。

私自身も関心を持って研究しているテーマでしたので、この問題について理解を深める上で、大変良い機会になりました。

(10) 表彰式および記念講演

日本商品先物振興協会が昨年度に募集していた「商品先物取引に係る懸賞論文」の表彰式があり、最優秀論文賞の受賞者として出席しました。当日は、審査委員長の花輪俊哉・一橋大学名誉教授から審査結果の説明などもありました。

その後、受賞論文をもとにして、約1時間の講演を行いました。多くの業界関係者が熱心に聴講してくださいました。

(11) テレビでの解説

5月24日に、東海テレビの夕方のニュース番組で、大幅赤字を記録したUFJ銀行の決算についてコメントしました。